



「イオンモール日の出」の駐



たまエンパワーは、太陽光パネルの下でブルーベリーなどを栽培する（相模原市）

イラボ、八王子市)は? 024年末、実証実験として日の出町の大型商業施設「イオンモール日の出」の駐車場の通路に4枚のパネルを敷設した。電気自動車(EV)の中古バッテリーを再利用し

裁を点灯する。
ショッピングモールでの路面発電の実験は国内初という。イオンモールは40年度までに、全ての大型商業施設で使用電力の全量を再生可能エネルギーとする目標を掲げ

なびを活用して太陽光発電パネルを増やす動きが広がっている。脱炭素化に向けて全国的に設置が広がる一方、森林伐採や景観の悪化など側面も指摘されている。日々の暮らしに溶け込んだ身近な場所を生かし、持続可能な形で自然エネルギーの普及を促進する。

多摩地域の企業

太陽光、路面・農地に脚光

イオン駐車場通路 ▲ミライラボ ▼たまエンパワー パネルの下で栽培

パネルの下で栽培

パネルの下で栽培

る。実験では発電量や蓄電量、日射量などのデータを集め、パネルの耐久性を検証する。

古バッテリーの性能を診断し、劣化度に応じて再製品にする事業を手掛けた。路面パネルも「舗装材以上の強度を達成した」(平塚利男社長)として、

農業・電力分野の人材育成などに活用する。同社は19年に子会社「さがみファーム」を設立し、津久井の耕作放棄地を借りて當農型太陽光発電に参入した。約14㌶の敷地内に支柱を立てて上部空間に太陽光

新たな農園は今夏に成し、発電を始めたうえで26年春からブドウやチジク、レモンなどを栽培する。約5000万円の整備費の一部に充てたため、クラウドファンディング（CF）で寄付募っている。第1目標

0キロワット)は「酸化炭素を排出しない「非化石価値付き電気として、生活協同組合の生活クラブグループの電力小売会社「生活クラブエナジー」に供給する。同社とは約200キロワット規模の電力開発を目指している。

電以上に農業をしつかり
る必要がある」と話す。
同じ場所で通常通りに作物を栽培した場合の8割を下回らない収穫量を確保している。

驗農園「さがみ」ベリー
ガーデン」の南側に農園
を新設し、「食とエネル
ギーのテーマパーク」と

パネルを設置し、その
で36種類、約1200
のブルーベリーなどを
培する。現在の発電能

下本裁方 300万円を上回り、6
ける。 00万円の第2目標を設
定して2月末まで受け付

たまごパワーの山川
勇一郎社長はソーラーシ
ニアリングの受け皿とな
る新農園について「事業